



氷川小学校 6年 塚野 海



氷川小学校 6年 武内 大和

奥多摩の安全をめざして

奥多摩消防署の新庁舎が完成し、2月4日の落成式には町内外から130名以上の方に駆けつけていただき、改めて多くの皆様のご支援、ご協力により完成できたのだと再確認しました。

奥多摩消防署は昭和46年10月に設置された奥多摩町消防本部を前身として、昭和49年4月に東京消防庁に消防事務を委託して開署し、同年の8月に現在地に消防署庁舎が落成、42年半の年月を経て新庁舎落成の運びとなりました。

東京消防庁の81の消防署の中で、奥多摩消防署は最も広い管内面積を最も少ない署員で対応しています。火災、救急、救助、予防等、業務内容は他の消防署と変わりありませんが、奥多摩の特徴といえはやはり「山」であり、山林火災、山岳救助に加え救急出場においても山岳救助に近いものがあります。

奥多摩消防署の署員は多くが希望により異動・転入してきており、得意分野も様々です。ロッククライミング、沢登り、縦走登山、溪流釣り、カヌー、ラフティング、自転車等、奥多摩にぴったりの特技、趣味ばかりです。消防の業務には、警察と違い山岳

「搜索」は含まれません。山岳地の行方不明事故に対しては、署員が非番日等の勤務時間外に警防調査を兼ねて自主的に搜索を行うこともあります。

近年、登山、ハイキングを楽しむ人が増え、平成28年の奥多摩消防署の山岳救助件数は36件であり、けがをしていない道迷い等、青梅警察署山岳救助隊のみで対応した事故を加えるとかなりの件数となります。登山者数の増加のみならず、携帯電話の普及、安易な登山（装備の不足、知識、技術、体力の未熟等）も影響していると思われ、都心から近距離ということで奥多摩の山の急峻さの認識度が低いのでは、とも思われます。昨年の36件のうちヘリコプターで救出して病院に搬送した事故が9件あったことから奥多摩の山の厳しさがわかります。

奥多摩消防署としては、登山中の事故防止と山林火災の防止について、様々な機会を通じて発信するとともに、引き続き訓練・研究を重ね、各種災害に対応できる能力向上に努めてまいります。

東京消防庁奥多摩消防署長 石川 繁

～とっておきの山歩きガイド～

～ 雪の雲取山 ～

標高 2017mの雲取山に記念すべき年、西暦2017年の1月10日(火)11日(水)に登ってきました。

小袖乗越の積雪は10cmくらいでした。8時30分、アイゼン装着でスタート。

登山口から山頂まで標高差約1500mへの2日間の挑戦です。無風、抜ける様な青空、凍てついた空気の中、一步一步登って行き、屋敷跡、水場を過ぎ10時50分、堂所着、早めの昼食。ここからも落葉した木々の間から富士山を望むことができました。

尾根を左に、右に巻きながら辛い登りが続き、セツ石分岐から雪が深くなり、踏み跡を慎重に進みます。12時50分、ブナ坂到着、雪が多くて立ち休憩。

ここからは防火帯の尾根歩きで南面が開けた気持ちの良い登りです。ヘリポートを経て13時55分、奥多摩小屋到着。小雲取山への巻道は雪が多くて通れず踏み跡を辿っての直登となりました。体も足もへトへト、思わず愚痴が出ます(独り言)、14時40分、やっと小雲取山着。

この先は穏やかな尾根歩きが続きます。山荘への巻道は使わないで少し登ると避難小屋が見え、開けた広い尾根の先が雲取山頂です。新しい標柱、記念柱もできていました。深い雪をかき分け山荘には16時到着、積雪35cm、宿泊客9名。

11日、快晴、外気温-10度、6時53分、ご来光。何度見ても神々しく思わず手を合わせてしまいました。7時23分、登山開始、30分で誰もいない頂上に到着。360度、山並みが見え紺碧の空の彼方に富士山が映えていました。避難小屋、気温-1度、積雪50cm、これから向かうセツ石山もよく見えます。小雲取山の急斜面を注意して下り9時奥多摩小屋着。なだらかな尾根道を富士山を見ながら歩いてブナ坂に9時30分到着、小休止。次はセツ石山を目指し夏道と違う踏み跡をまっすぐ登るといきなり頂上に飛び出しました。10時15分着。朽ち果てたセツ石神社を過ぎ、伝説の斧手石を経てセツ石小屋へ11時着、昼食。小屋番

は新しい若いご夫婦です。300円のお汁粉は美味しくて体もポカポカになりました。

ここからの富士山も相変わらず絶景でした。

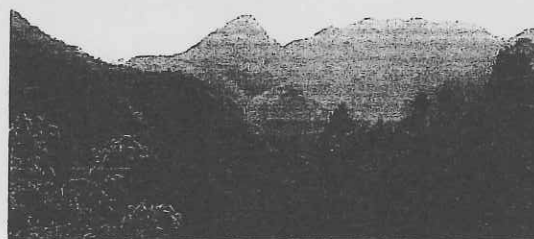
順調に歩を運び小袖乗越に14時15分着、重かったアイゼンを外しホッとする。

天気に恵まれ仲間に励まされた雪の雲取山登山でした。 感謝! (中里 與志江)

～ 天地山(奥多摩槍) ～

青梅市御岳に玉堂美術館(川合玉堂1873年～1957年)があります。

白丸から西南方向を眺めると尖った山がみえます。玉堂氏が白丸の地に移住していたころ、奥多摩槍と名付け天地山を描いていたようです。



白丸から望む天地山

その奥多摩槍が雑誌に載り、数年前から天地山へのご年配の方の登山が多くなってきました。

登山口の一つとして、私が住んでいる海沢からのルートがありますが、5差路になっていて迷う人が多く、その一人に声をかけてみましたら、天地山の名前に興味があり一度登って見たかったとのこと。ここからちょうど1時間15分ほどで山頂(974m)に到着します。愛宕山から登り鋸山の手前を左折するコースもあり、3月中旬から4月上旬ごろには北斜面に咲く淡いピンクの可憐な花、イワウチワが見頃です。山頂から鋸山方面に進むと1カ所岩場があり注意して歩くとイワウチワの群生があります。秘密の場所です。

(なお、海沢からのルートは、未整備で、登山ルートの標識はなく、熟練者向きですので十分にご注意下さい。)

(大澤 新次)

奥多摩山歩きワンポイントアドバイス ～等高線で地形を読む～

桜花爛漫の春がやってきた。ここ奥多摩では例年4月の第一日曜日に、山開き式と登山の安全祈願祭が執り行われ、登山シーズン到来となる。奥多摩駅前も冬の眠りから覚め、多くの登山者で賑わいを見せてくる。

今回は地形図を見ながら山の形を想像して実際の山歩きや現地での山座同定に備えて欲しい。まずは登山者必携の基本的な1/25,000国土地理院地図で奥多摩三山の一つ、名峰大岳山を例に挙げてみたい。

頂上付近の標高1,250mの計曲線(太い線)よりも100m低い1,150mの計曲線に着目すると、北東方向、南南西方向更には北西向きにそれぞれ尾根が張り出している。また、北西方向に伸びた尾根に山頂とは別に1,210mのピークを示す主曲線(細い線)が離れ島のように描かれている。

図1の地形図からこれらのことが読み取れると、特徴的なあの山容をもつ大岳山の形が浮かんでくる筈である。



大岳山を東南東の方角から望む



(図1…1/25,000地形図大岳山山頂付近の抜粋と遠望)

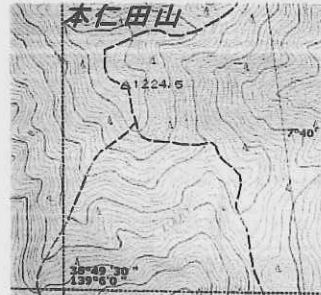
この山のシルエットは、どこから眺めても特徴的で美しく八王子近郊の人々からは今でもキューピー山の愛称で呼ばれている。また江戸から明治・大正・昭和にかけて木更津方面の漁師仲間では、漁を終えて港に帰るとき、この山を目印にして帰港したと伝えられている。GPSやレーダーの発達していなかった時代であって、大切な羅針盤の役割を果たしていたことが窺える。

この他、大岳山に纏わる逸話やお天気占い等は、各地に残されているので、お住いの地域で採録されるのも楽しいだろう。

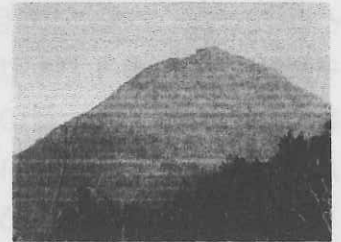
次に、奥多摩でもJRの駅から直接日帰りの出来る山とし、本仁田山を取り挙げてみたい。図2の地理院地図でまず目に映るのは、1,200mの計曲線付近の等高線間隔がほぼ同じで、山頂周辺を取り巻き、南側と北西及び北東方向に張り出している。さらに、1,100mの計曲線に着目してみると、図1の大岳山

のような離れ島はない。このことは頂上のピークが一つで、そこから派生しているそれぞれの尾根がほぼ同じ傾斜で^{たお}やかにたなびいていることが分かる。

実際、本仁田山はどの方角から見ても同じように美しく、お椀型をしている。この山の形は、奥多摩三山(三頭山・御前山・大岳山)のどの頂上から眺めても、また今年の西暦と同じ標高(2,017.1m)の雲取山のてっぺんから眺めても殆ど同じ形に見える。



本仁田山を南南西の方角から望む



(図2…1/25,000地形図から本仁田山山頂付近の抜粋と展望)

左側の地形図上でどの部分が右側の写真ではどのピークに相当するかを見比べて戴きたい。こうした簡単な作業でも、それを習慣づけると地形図を見る度にその山容が浮かび上がってくる。

ところで今回例示した大岳山と本仁田山の地形図は、日本全国を縮尺1/25,000で網羅した国土地理院の著作発行による基本図の電子版である。これに緯度経度線とこの付近の磁北線を加筆し引用した。

これらの基本図は紙ベースでも比較的大きな書店や登山用品店で売られている。全国4,420面のうち、既に約1/5以上は従来の3色刷りから順次多色刷りに切り替えられている。自分が出掛ける地域のものは是非購入されたい。

しかし、急に要り様となった場合や山行の記録を記入したい場合等は、便利な電子版もお勧めである。インターネット上のサービスを利用し、自宅のプリンターでカラー印刷したものを小さく折りたたんでポケットに忍ばせて置けば、山歩き途中の記録にも重宝である。

市販の登山地図や1/200,000展望図なども併用し、地図読みのセンスを磨いて、より安全で楽しい自立型の登山者を目指そう。

奥多摩友の会の皆さんはグループによる集団での登山が中心ではあると思われるが、観天望気によって天候を予想し、併せて自分の今いる位置を地形図で確認、さらに山座同定が出来れば、山登りの楽しさも倍増するであろう。(富士 光男)

お詫び…前(1/15)号で山荘の記号(■で示す)とあるのは(□で示す)の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

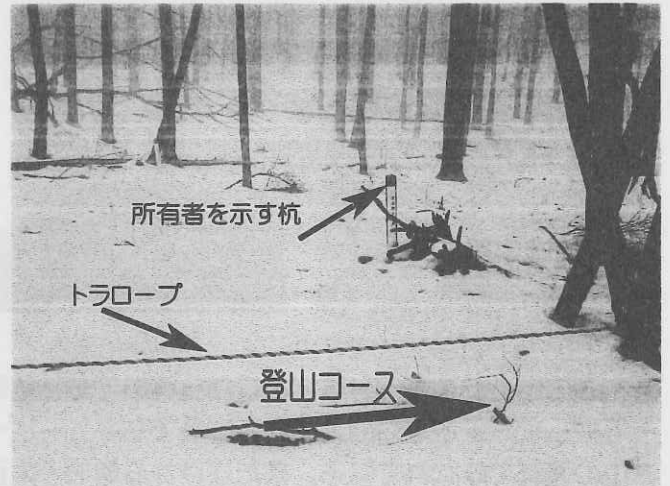
11月18日、「奥多摩むかし道」下見の日。奥多摩駅前では行方不明者の写真入りチラシを登山客に配る人がいた。私たちガイド4名は、むかし道を奥多摩湖に向かって歩いていた。紅葉が真っ盛り、途中の「いろは楓」は「今まで何回も見に来たが、こんなに鮮やかに紅葉したのは見たことない」と言わせるほどの鮮やかさ。「来週まで、もってくれよ」と願いつつ、水根の「青目立ち不動尊」まで来た。その時、警察の車1台がサイレンを鳴らして水根沢林道を登って行った。その後しばらくして、救急車、パトカーなどが後に続いた。「これは何かあったな?」「もしかしたら、あのチラシの人が発見されたのかもしれないな」と思いつつ、帰りのバスに乗った。

40歳男性Aさんは、11月13日奥多摩駅からバスで東日原まで行き、稲村岩コース鷹ノ巣山を目指した。山登りは初心者ではあるが、足には自信もあり年も若いので、日原からの急登も登り切り屋には山頂についた。昼休み母親に写真付きのメールを出し、鷹ノ巣山に来ていることを連絡した。

11月14日、男性が務めている会社から、出勤してこないと家族に連絡が入り、そこで母親が近くの警察署に連絡した。捜索は稲村岩尾根コース、石尾根コース、水根沢林道コース、榎ノ木尾根コースと広範囲に及んだ。登山計画書が出ていない。そのため捜索は難航した。そして11月18日水根沢で発見された。発見現場は水根沢林道の終点から100mほど登山道を登った地点の崖下の沢で、遺体には大きな損傷はなく水の中に浸かった状態であった。水根沢林道から滑落したのではなく、榎ノ木尾根コースから迷い込んだものと推定された。



Aさんは鷹ノ巣山から榎ノ木尾根コースを下り榎の木山、シンナシノ頭から急な山道を下ると、小学校の校庭が出来るほどの広い場所に出てきます。11月中旬ごろのこの辺りでは、落ち葉がいったまみり、道が埋まっています。道標のわきに、「道迷いに注意してください」との看板が掲げられていました。ここから水根沢方面の尾根は地図で見てもわかるように、比較的なだらかになっていて、迷い込みやすくなっています。私が見に行った、1月20日は、まだ雪が15cmほど積もっていました。そして山の所有者が山の境として付けたと思われる、杭やりボンテープがあちこちにあり、迷いやすい場所になっていました。この場所は以前も道迷いにより水根沢に迷い込み、救助要請が発生しています。(その後、登山道に写真のようにトラロープで迷い込まないようにしてありました。)



多分この辺りから入り込み迷ってしまったのではないのでしょうか?

道に迷ったらどうすればよいのでしょうか? 地図を見る。そしてコンパスで方向を確認する。しかし、それでは遅い。地図を見てコンパスで確認するにも、現在位置がわからなければ、意味がありません。迷ってからでは遅いのです。迷う前に現在位置がわかっているうちに、ルートを確認しておくことが大切です。そして、迷ったと思ったら地図で確認できる場所まで戻ることです。



特に単独での登山や少人数での登山の時には気をつけましょう。山岳事故ゼロを目指して

(小峰 一郎)

奥多摩樹木雑考

～わすらわしい左と右の話～

頬をなでる風に、いまだ冷たさを感じた光の春から、陽光のかがやきが増してくる4月ともなると、林縁や明るい樹林の中に、フジが鮮やかな青紫色の花を見せはじめます。

奥多摩の森にはフジ（ノダフジ）とヤマフジがありますが、圧倒的にフジが多く、ヤマフジを見るのが少ないです。ところでフジとヤマフジは、フジが花序のつけ根から先端へ向けて徐々に開花するのに対して、ヤマフジは花序全体が一度に開花することで見分けられます。また、花が見られない時期では、つるの巻き方で見分けられます。問題はこのつるの巻き方の説明が図鑑によってまちまちな点です。説明の内容を整理すると、次の①～③のようになります。①フジは右から左へ巻きつくから右巻。ヤマフジは左から右へ巻きつくから左巻。②フジはつるの巻き上がる方向を見ると、（伸びていく方向を下から見る）だから左巻。ヤマフジは同様に見ると、だから右巻。③理由なしにフジは右巻。ヤマフジは左巻。その逆にフジは左巻。ヤマフジは右巻との説明もあります。

ちなみに、川の左岸、右岸は川上から川下に向かって（流れの方向に向かって）左岸、右岸というのですから、見方としては②と合います。

そこで私は、つるの身になって考えることにしました。フジのつるは、自分のからだの右側を相手にくっつけながら伸びて行くので右巻としました。一方ヤマフジのつるは、からだの左側を相手にくっつけながら伸びていくので左巻としました。つるの巻き方のとっさの見分け方として、巻き方が片仮名の「ミ」に見えるとき、「みぎ巻」のフジ、逆の「//」を左巻のヤマフジとするのが、私の自己流の見方です。それにしても、巻き方はどのようにして決まるのでしょうかね。

（橋上 一彦）

奥多摩の野鳥

～托卵性の鳥～

托卵性の鳥は子育てせず、他の鳥の巣に卵を産み育てさせる。どうしてこのように進化して来たのか？不思議な鳥です。

托卵性の鳥は日本では、ホトトギス、ジュウイチ、ツツドリ、カッコウ、の4種が夏鳥として4月頃からやって来ます。

今回はその中のカッコウを取り上げました。

カッコウ：ホトトギス科（カッコウ科）でキジバトぐらいの大きさで頭から顔、背は褐色を帯びた青灰色で、アイリングは黄色、尾は長く、白い斑点が並び、胸の下部から腹は、白に灰黒色の細かい横縞模様（ツツドリやホトトギスより細かく密）、雄雌同色、さえずりはカッコウ、カッコウ、カッコウ、で声か名の由来になっている。

さて、カッコウは、どのような種類の鳥に托卵するのでしょうか？低木の散在するヨシ原に生息するカッコウは、主にモズ、ホオジロ類に托卵するようです。すごいのは、それぞれの寄主の卵殻の色と斑紋がよく似ている。そして、卵は寄主の卵より数日早く孵化します。カッコウの雛は、寄主の卵や雛を巢外へほうり出してしまいます。

このようにして、カッコウの雛は巢を独占し、寄主の親鳥に育てられます。カッコウの親鳥は、^{いくすう}育雛行動は全く行いません。でも親鳥は托卵した後は、全く自分の子に無関心で、子の成長は気にならないのでしょうか。最近の調査でわかった事は、托卵した寄主の巣のまわりで子の成長を見守っているとの報告があります。

やはり自分の子の成長は、気になるのでしょうか？最後に、托卵性の鳥の話題を2点ほど紹介しておしまいと致します。

・夏鳥として繁殖する托卵性の鳥の渡来の順番は一般的にツツドリが一番早く、ジュウイチ、カッコウ、ホトトギスの順といわれています。

・カッコウは雄、雌間の泣き声の相違を識別するのは、むずかしいが、カッコウ、カッコウと鳴くのは、雄のさえずりに相当し、雌のカッコウは、「カッコウ」とは鳴かず「ピピー」と聞こえ雄と合った時や、産卵後といわれています。

（畑 幸夫）

平成29年度

～ イベントの参加方法が変わります ～

「友の会」入会申込書に必要事項を記入し、観光案内所に提出してください。年会費は1000円です。

イベント参加方法（友の会会員のみ）

- (1) 事務局より年間イベントスケジュールを送付します。
- (2) 奥多摩町観光案内所（観光協会）まで申込受付期間内にお電話ください。
- (3) 受付日より先着順で受け付けを行い、定員になり次第締め切りになります。
- (4) 申し込み締め切り後、事務局より官製はがき等でイベント当日の案内を送付します。
- (5) イベント参加費は原則1000円です。ただし、自宅から集合場所、又は登山口などへの往復交通費は、含まれておりません。

＜イベント案内＞

- | | | |
|-------|-----------|---------------|
| No.3 | 4月 4日（火） | 天地山の可憐なイワウチワ |
| No.4 | 4月 8日（土） | 桃源郷と立川断層（青梅市） |
| No.6 | 4月 25日（火） | 山里歩き 峰集落周遊 |
| No.8 | 5月 19日（金） | 名瀑百尋の滝から川苔山 |
| No.14 | 7月 11日（火） | 棒ノ折山 初夏の山歩き |

奥多摩町観光案内所から

奥多摩駅を降りて左手にある観光案内所には、いろいろなグッズを販売しています。平成27年の町制施行60周年を記念して作成したワサビのピンバッジ、ストラップをはじめ、これからの季節に、奥多摩特産のワサビが入った奥多摩わさびアイスはいかがでしょう？

また、治助イモ（古くから奥多摩で栽培されてきたジャガイモ）と奥多摩産シカ肉を使ったおくたまカレーもとってもおいしいです。

ピンバッジ 300円、わさびストラップ 500円



チーズタルト 180円

わさびアイス 250円

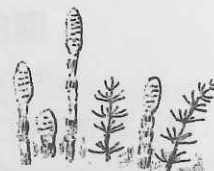
登山の安全お守り 200円

おくたまカレー 450円

おくたまごはん（ワサビの茎入り）420円

などがあります。

奥多摩地域情報局



4月15（土）、16日（日）

- ・山のふるさと村「春祭り」
- ・水と緑のふれあい館 春のミニコンサート

4月29日（土）祝日

- ・奥多摩セラピーウオーク（むかし道）
- ・小丹波「小丹波のお囃子」熊野神社

5月5日（金）祝日 川井 八雲神社獅子舞

表紙の絵は奥多摩町立氷川小学校が毎年行っている「巨樹写生会」で描かれた「氷川の三本杉」の絵です。

JR 青梅線の終点、奥多摩駅の周辺はかつて、すべて奥氷川神社の境内であったといえます。氷川神社と名のつく神社は多々ありますが、この奥氷川神社がすべてのはじまりであると言われていいます。大宮にある氷川神社は有名ですが、その大宮と奥多摩を直線で結び、中間には所沢の中氷川神社があり、これらが等間隔で設置されていることが分かります。

その奥氷川神社の境内にあるのが、「氷川の三本杉」です。3本の杉が癒着して成長したもので、幹周りは7.5m、樹齢は700年ともいわれ、樹高は50m、これは東京都でもっと背の高い木といわれています。

施設案内

「日本山岳会 奥多摩ベースキャンプ」

日本山岳会東京多摩支部が、奥多摩の活動拠点として開設した集会施設。奥多摩駅から徒歩5分氷川大橋先の青梅街道沿いにあります。登山の町奥多摩に来られる登山者や町民との交流の場になるように、登山用具や山の写真展などがあり、休憩場所もあります。是非お立ち寄り下さい。会員が常駐してないので開店は主に休日です。

連絡先 090-1839-8424（担当坂本）

ホームページ <http://www.jac-tama.or.jp>

（公益社団法人日本山岳会東京多摩支部）

次号発行予定：平成29年7月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会

住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210

電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789

編集 名人・達人観光ガイドの会

<http://www.okutama.gr.jp/>